

いざという時は みんなで支える



先日の熊本地震をはじめ、全国で大きな災害が相次ぐ今、自分や大切な人はもちろん、地域全体で助け合う「備え」への意識が高まっています。

今回は、稲荷町自主防災会と須賀島地区自主防災会で行われている防災訓練の様子を紹介します。



消火器は自主防災会長の小川さん(前列右)をはじめ、役員のみなさんの家の目立つ場所に置いています。



防災訓練に参加した稲荷町地区のみなさん。消防団員の方から三角巾の扱い方を教わります。布がない場合、レジ袋でも代用できるそうです。

「すぐ動ける」備えを 稲荷町自主防災会

稲荷町地区は東武動物公園駅東口、東小学校を囲む市街地にあります。

同地区ではコロナ禍でしばらくできていなかった訓練を、今回久しぶりに実施しました。

家屋が密集する住宅街だからこそ「初期消火」は地域にとって切実な課題です。そのため、今年から消火器の場所が一目でわかるマップづくりを進めています。また、停電時やガソリンが入手しにくい災害時を見すえてソーラー蓄電池を導入しました。「場所がわかりやすく、いつでも使用できるように」と地区内のお店の倉庫に保管しています。

現在自主防災会では、緊急時により素早く資機材を取り出せるよう、地区の中心となる場所に倉庫の増設を考えています。また、自治会の親睦ツアーで埼玉県防災学習センターへ出かけるなど、無理なく参加できる工夫も取り入れています。

地域のリスクに応じた日頃の備えが、いざという時の大きな安心を支えています。

「これからは毎年継続してやっていきたい」と自主防災会長の小川さんは話します。



停電になった時のことを考えてソーラー蓄電池を備えています。「スマホの充電や扇風機を動かすのに役立ちます」と町内会長の石塚さん。

地震体験車がやってきました

7月25日・26日、町内を巡回した地震体験車。震度6～7の揺れを体験したみなさんの声をご紹介します。



小島さん

踏ん張れなかった

何かにつかまろうとしても、つかまったもの自体が動いちゃって踏ん張れないので恐怖を感じた。今日の経験を、自治会サロンでみんなに共有したい。



小寺さん

とても長く感じた

最初、たてに揺れて体が浮く感じがあった。15秒が体感で1分くらいに感じた。



桃山台自治会のみなさん

震度7はすごかった

揺れている間に火を消しに行くのは、かえって危険だと実感した。震度6と7では全然違う。揺れている間は動けなかった。



行ってみよう

能美防災そなえ (埼玉県防災学習センター)

(入場無料)

地震や暴風、火災の煙など、さまざまな災害の疑似体験や展示を通して防災を学ぶことができる施設です。



所在地 鴻巣市袋30
開館時間 9時～16時30分
休館日 月曜(祝日の場合翌日)、年末年始
電話 048-549-2313

HP

体験された方は「想像以上だった」と口にしていました。今回の体験は、自分や家族の身を守るために家具の配置・固定方法を見直す、冷静に行動するために避難経路を確保するなど、日頃の備えが大切だと実感するよい機会となりました。

「いつもの役割」が地域の備えに 須賀島地区自主防災会

須賀島地区は東武伊勢崎線と日光線の線路に挟まれた、農村地域と住宅地が混在する地域です。

年2回の訓練を行う須賀島地区自主防災会では、地域を3つに分け、地域ごとに給食給水部、救出救護部など全5つの担当を割り当てています。担当は年度ごとに変わることがないようにしているため「いざという時」に迷わず対応することができます。

「災害が起きた時、役割が曖昧にならず、それぞれが責任を持って行動することができるようになる」と自主防災会長の井上さんは話します。

6月に行われた防災訓練では、DVDの視聴による防災研修と各部の顔合わせ・資機材の確認を行いました。12月の訓練では、3つの地域ごとに指定された一時避難場所に集まり、その後集会所へ移動する避難訓練と、6月に各部で確認を行った資機材を実際に使用した訓練を行う予定です。

それぞれが自分の役割を把握して行動にうつせるような仕組みづくりが、地域の防災力を高めています。

地域の状況に合わせて試行錯誤し、備えをつづけているみなさんの姿が印象的でした。

こうした活動をつづけることが、「いざという時」にみんなで支え合う関係性を築いています。

問 危機管理担当 34・1111内線277

2階
16番



各部(情報・消火・救出救護・避難誘導・給食給水)の担当が集まり顔合わせを行いました。

資機材の保管場所をみんなで確認しました。12月の訓練ではトランシーバー伝達やテント設営、発電機の始動、炊き出しなどの訓練を行います。



「毎年役割が変わると、いざという時に混乱してしまう。特定の人でなく、誰でもできるようにしたい」と話す自主防災会長の井上さん。誰もがわかりやすい、資機材の写真付きの表示を作成しました。



トイレの備えてきていますか？

大きな地震や豪雨、水害の後には、断水や排水管のトラブル(破損・泥詰まり)が多発します。安全確認をせずに水を流すと、汚水の逆流や下層階への漏水を引き起こす原因になります。

放置すれば感染症や害虫の発生、また、トイレを我慢して脱水症状になるなどの健康被害が起こることもあります。安全が確認できるまでは非常用トイレ(簡易トイレ)を使用しましょう。

〈各家庭で備蓄しておこう!〉

非常用トイレ

- ・ポリ袋(透明・色付き)
- ・凝固剤

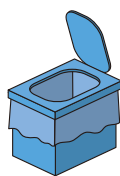


透明袋の上に色付き袋を重ね、凝固剤を入れます。捨てる時は上の色付き袋だけを取り外せばOK!

! 使用済の袋は可燃ごみとして捨てましょう

～あると便利なもの～

- ✓ 使用済の袋を保管するとき
 - ・防臭ゴミ袋
 - ・密閉できる容器
- ✓ 凝固剤の代用品(細かく裂いて入れる)
 - ・新聞紙
 - ・ペットシート
 - ・紙おむつ
- ✓ 既存の便器が使えないとき
 - ・市販の携帯トイレ
 - ・市販の組立式簡易トイレ



令和8年熊本地震 災害義援金にご協力をお願いします

問 福祉支援担当 34・1111内線325

1階
7番

募金箱設置場所

- ・宮代町役場(福祉課・住民課・会計室)
- ・すてっぷ宮代

受付期間

10月30日(金)まで



〈記事ID 26698〉

命をつなぐ防災講座

～赤ちゃん子どもと～

AEDの使い方やローリングストックの大切さ、子どもと避難所へ向かう時の準備を学びます。予約は不要ですので、直接お越しください。

日時 9月28日(月)
10時15分～11時15分
対象 未就学児親子と子育て中の保護者
主催 しんちゃんサークル



子育てひろば イベント情報